委員長メッセージ　第11期前半年3月号

＝　思いやりの花道　＝

２月は基幹労連の安全衛生対策強化月間。中央本部では、安全ポスターの募集・掲示をはじめ、事務局長談話での呼びかけを行い、各加盟組合・構成組織、県本部・県センターでは、わが身と仲間を守るための工夫を凝らした取り組みを進めていただいた。

幸せを育むための職場で決してケガや命を脅かすことはあってはならないし、働く者の命と健康を守ることは労使の責務であることは言うまでもない。

そのもとで、働く側も安全を強く意識し、日々の業務を遂行していくことが肝要だが、その捉え方には人それぞれに思いがあるということをあらためて教えられた。それは新型コロナウイルス・オミクロン株が猛威を振るうなか出張等が制約されていることもあり、事務所でのデスクワークの時間が増え、久々にじっくり読ませていただいた加盟組合の機関誌からである。

機関誌「ひしろうほう」・安全衛生強化月間特集号では、今年も心打たれる作文が寄せられていた。最優秀賞となっている現業部門の事技職で働く海端さん、「指差呼称で守る家族の安全」と題した作品。ご主人（原文を引用）の出張が多いこともあり、家族の安全を守るため、「火の元良し！戸締り良し！」、家の中でも指差呼称。お母さんとして、奥さんとして、お子さんやご主人、大切な人を思う気持ちがひしひしと伝わってくる。そして、家族の心身ともの安全と健康を願う気持ちを込めた出勤前の指差呼称、「元気良し、笑顔良し」「今日も一日ご安全に！」。さわやかな笑顔とピンと伸びた人差し指が目に浮かぶ。

優秀賞に選ばれた飯島さん、テーマは「現場人」。現場は戦場、それくらいの気持ちで臨め！そんな先輩の教えをあらためて自分自身に言い聞かせる。ルールは我が身を守るための掟、時にルールを守らず・うまく乗り切れた、なんて人がいたら、たまたまラッキーだっただけ。ラッキーはそう続かない。愚直に、地道にルールを守ること、それがわが身と仲間を守る。生涯現場人・めざすは、災害報告などない安全職場。今日も無事に家に帰るぞ！と、頼もしい。

家頭さんの題名「声かけとは」。判断に迷っている姿や危険を感じた時に、とっさに声がかけられるか？祖父に聞いた人と人との信頼関係があるから声かけが適う。わが身におきかえて、仲間とのつながりの大切さを実行していきたいとの決意も新たに。

「健康のありがたさ」と題した川村さんの作品は、幼いころのお母様と過ごした日々を思い出し、いま病を抱えながらも懸命に暮らすお母様への想いを綴るなかで、普通の生活、健康のありがたさを実感し、愛しい人に寄り添い・守り、そっと手を差し伸べることの大切さに触れている。優しさも絆も、きっとそんなところから生まれてくるのだろう、心洗われる思いに浸った。

すべては紹介できないが、これら作品に共通するのは、安全・健康を自身の目線で見つめなおし、それは生きていくうえで、そして笑顔であり続けるために、かけがえのない大切なもの、失ってはならないものであること。時に厳しく、時にやさしく、相手の立場に立って、わが身におきかえて、仕事に、暮らしに活かしていこうとの決意と優しさが散りばめられた作品集、ありがたく拝読させていただいた。

ところで、２月のある日、基幹労連のロゴと村田きょうこのイラストを描いたピンクのティッシュ（ティッシュそのものがピンク色）が届いた。基幹労連熊本県本部の労働災害撲滅に向けた門前配布のグッズである。

ピンク色、その色の持つイメージは、幸福感・優しさ・ときめき・やわらかさ。なかでも淡いピンク色は、相手も自分も優しい気持ちにしてくれる色みという。拝読した作文もそんな心持ちのものばかりだった。

優しい色合いの花が咲きはじめる３月。笑顔で、元気に、「ご安全に」の言葉とともに春を迎えたい。

そして淡いピンク、もう一つの象徴、それは　“村田きょうこ”きょん・きょんのイメージカラーでもある。

みんなの力合わせで、もっと、もっとピンクの花を咲かせていこう。

ご安全に

2022年３月１日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長　神田 健一